

摂社でありながら本社に負けない風格を持った神社

大／阪／の／建／築／まちあるき——「みしま野」

ながいじんじゃ しゃでん・からもん
永井神社 社殿・唐門



正面鳥居から見た永井神社



拝殿から見た社殿



唐門に踊る龍の彫刻



拝殿の向拝に遊ぶ鳳凰・唐獅子・象

所在地： 高槻市野見町（野見神社境内）
最寄駅： 阪急高槻市駅から南へ徒歩 10 分
見学： 自由 大勢での見学時には静粛に
文化財指定等：
社殿・唐門 高槻市指定有形文化財
(平成 17 年 6 月 14 日指定)

高槻城跡公園の近くに野見神社と言う元式内社が当地へ移って来たとされる神社がある。野見神社の祭神は野見宿禰(のみのすくね)とスサノオミコトであり、古来より靈験あらたかな神社として参拝者の列が絶えない。神社の名前の由来ともなった野見宿禰は『古事記』で描かれている相撲の嚆矢であり、當麻蹶速(たいまのけはや)と戦った事で知られる。また古墳に埴輪を入れて、側近達が崩御した天皇と共に生きのまま葬られる事を無くしたとも伝えられ、一説では菅原道真公の祖先であるとも言われている。

野見神社の本社は新しく木の香が漂うばかりに白木が美しい。その野見神社の入口付近に古く黒ずんだ趣のある神社が静かに佇んでいる。永井神社として知られている野見神社の摂社である。永井神社の唐門と本殿・合の間・拝殿で構成された社殿は細かな彫刻で覆われた優美な姿を我々に見せてくれる。永井神社は摂社と言う野見神社に附属した神社であるにも関わらず、境内の本社である野見神社に臆する事もなく、やや小振りの建物ではあるが、唐門と社殿の風格は威風堂々としており、見る者を魅了して止まない。

戦国時代の高槻城主はキリシタン大名として有名な高山右近である。右近が豊臣秀吉にその地位を追われた後、城主は何代にも渡って代わっていたが、永井直清が藩主となって高槻の地を治めるようになり、城主交代劇も漸く安定し、明治時代まで永井家が高槻を治める事になる。永井神社は現存する棟札によれば、寛政5年(1793)、第9代藩主直進公が徳川家の東照宮造営に憧れて做ったのであろうか、初代藩主直清公を祭神として創建したとされている。その後、社殿は月日の経過と風雨に晒されて傷みが目立ち始めたのもあり、嘉永元年(1848)に直清公が高槻城に入城してから二百年が経過した事を記念し、第11代藩主直輝公が社殿を修復した。その折に、併せて唐門が創建されたと唐門の棟札には記されている。

本殿・合の間・拝殿で構成される社殿は、規模こそ小さいが、全体構成は権現造りで、各所に鳳凰・唐獅子・象・虎・兎と細かく彫刻が施されている。質素な白木造りで彩色は施されていないが、その細部意匠は東照宮建築に肉迫するものがある。唐門は社殿と同様に規模が小さく、門の装飾は西本願寺の唐門には及ばないが、鶴や龍が乱舞し、扉に花文様が彫刻されており、これらの建物の意匠には江戸時代中期・後期の特色がよく表れている。(神保 勲)